

パックのおなはし

～ うごかないくるま～

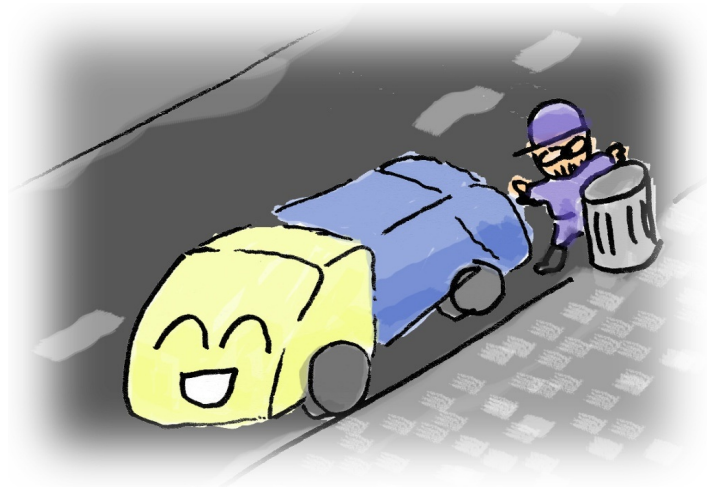


## パックのおしごと

---

パックは ごみしゅうしゅうしゃです。

まいにち、まちのごみを あつめます。



みんなに、きたないとか、くさいとかいわれても、  
パックは このしごとが だいすきでした。  
だって、パックは よごれてしましますが、  
そのあと、まちは ぴかぴかになるのですから、  
こんな きもちのよいしごとは、ほかにはありません。

パックは、まいにちたのしく、しごとをしていました。

## パック、かじになる

---

ところがあるあさ、いつものように、ごみをあつめていると、とつぜん、おおきなおとがして、あつめたごみが もえだしました！



おじさんが、しょうかきで、ひをけそうとしましたが、まにあいません。ひはどんどん もえひろがってゆきます。ごみのなかには もえやすいものが たくさんあります。かみや きはもちろん、ぷらすチックも よくもえるのです。

それで、あっというまに、

パックは ひにつつまれてしまいました。



「あついよ～、こわいよ～」

パックはあつくて、いたくて、くるしくて、  
このまま しんでしまうと おもいました。  
そうおもうと、こわくてしかたがありませんでした。  
でも、ごみはすてませんでした。

だって、もえているごみを すててしまったら、  
まちが、おおかじになってしまうからです。

「あそこのこうえんまで がんばれ」

おじさんが こえをかけます。

パックはくるしくても、いたくても、ごみをぎゅっと、  
かかえてはしりました。

## パック、こうえんにつく

---

でも、もう パッカーはくろこげで、たいやもとけて、うまくはしれません。

こうえんは もうすぐですが、

パックは もうがんばれない とおもい、なみだがでてきました。

おじさんが パックをげんきづけます。

「もうすぐしょうぼうしゃがくるからな、がんばれ！」

パックはちからをふりしぼって、

なんとかこうえんに、たどりつきました。



## パック、しょうかされる

---

そのときです。

う～、かんかんかんかん

う～、かんかんかんかん

しょうぼうしゃの　さいれんがきこえてきました

「よくがんばったな！パック！」

「とくべつせいの、かがくしょうかざいだぞ」

しょうぼうしゃの　パンプくんはそういうと、

いきおいよく　パックのおなかに、

しょうかざいを　ふきつけました。

ひは　みるみるうちにきえました。



## レッカーしゃにのる

---

でも、パックはうごけません。タイヤはとけて、  
からだも くろこげで、どこも うごかせません。  
おじさんが、いいました。

「ひどいめにあったな。いまれっかーしゃがきたから  
しゅうりこうじょうで、しんぴんどうようにしてやるぞ」  
でも れっかーしゃの がらすにうつる、  
くろこげのじぶんをみて  
パックは ますますかなしくなりました。





## しゅうりこうじょう

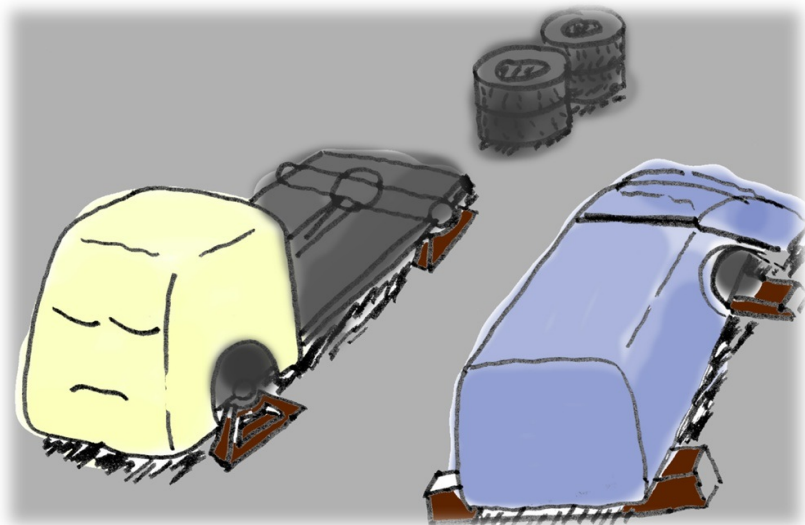
---

しゅうりこうじょうにつくと、まずパックのきていた  
そうびを ぜんぶおろしました。

たいやも、ほいーるも、いろんなぱいぷやら、  
パッカーやら、ホッパーまで おろしました。

パックは、ぶひんをはずされるのが、ふあんでしたが、  
なれてくると、すっきりして、きもちよくなってきました。

そして、いつのまにか ねてしまいました。





## しんぴんどうよう

---

つぎにおきてみると、パックはすっかり

しんぴんのようになっていました。

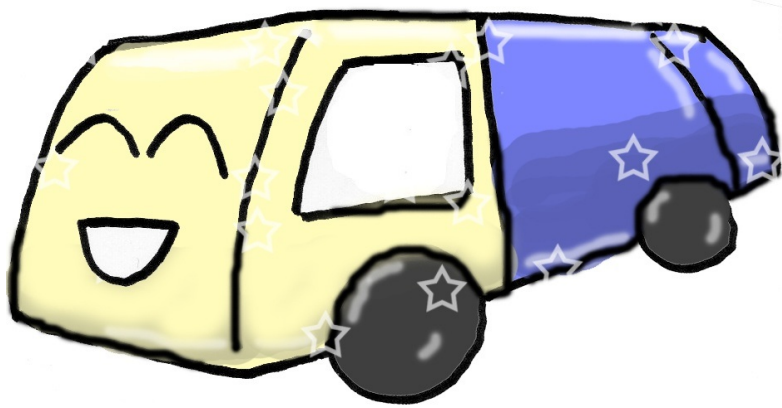
「ぶひんもこうかんして、ほんとうにしんぴんみたいだな」

せいそうきょくのおじさんが、

パックのからだをみがきながらいいました。

「わ～！ほんとうだ、しんぴんだ！」

パックは すっかりうれしくなりました。



## パック、さいしどう

---

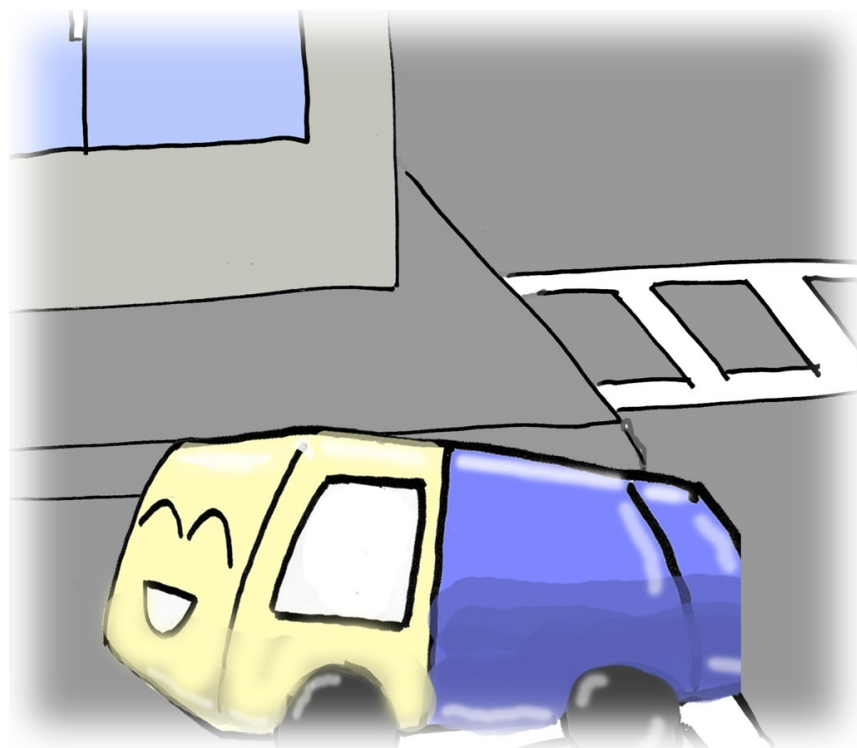
しゅうりが終わったパックは、いよいよ、しごとに でかけました。

まちのひとが、パックをみています。

「あれが、パックよ。えらいわねえ」

「もう、すっかりぴかぴかだよ、よかったね」

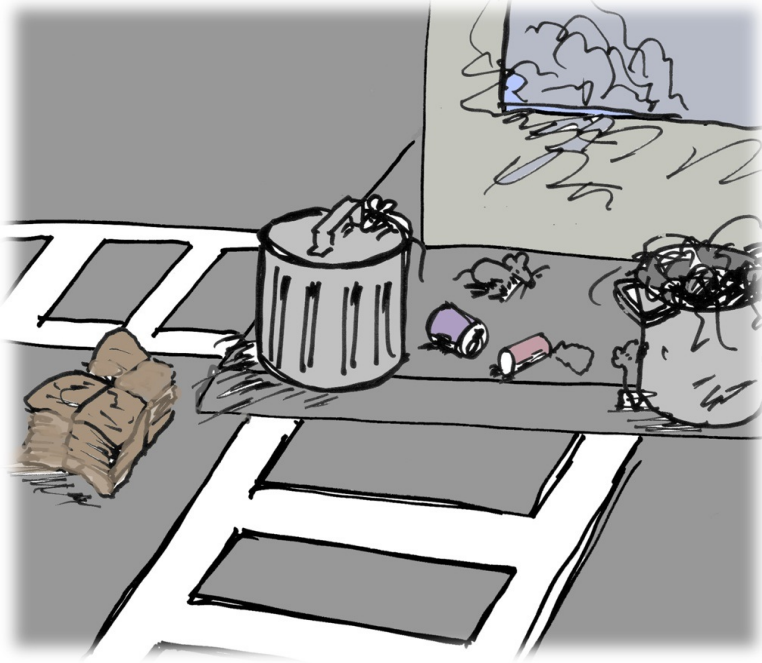
パックは、みんなにみられて、はずかしいきがしました。



## パック、にげだす

---

でも、  
さいしょの ごみしゅうじゅうじょに ついたときです。



パックはきゅうに、このあたらしいからだ  
がよごれるのが いやになりました。  
おじさんは、うれしそうに ごみをもって まっています。  
「どうした、パック？まちは、ごみだらけだぞ」  
でも、パックはからだを、よごすのはいやでした。  
おじさんは  
「みんなが おれたちをまっている。いそがしくなるぞ」  
と せかします。  
パックは、せかすおじさんをおいて、にげだしました。

## パック、じゆうにはしる

---

パックは あたらしいぴかぴかのからだで、はしりました。

のはらや、はまべをはしりました。

パックのことをみても、だれもくさいとか、きたない、

なんていいません。

パックは とてもいいきぶんでした。

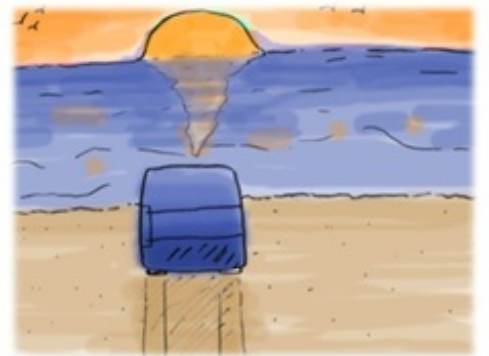


ゆうがたになると、はまべで ゆうひをながめました。

こんなに ゆったりしたのは、はじめてでした。

そのまま、よるになるまで、なみの おとをききながら、

うみをみていました。



## うみべにて

---

きもちのよいかぜが ふきました。  
かぜに、あきかんや かみくずがとばされて、  
うみにおちました。



よくみると、うみには、いろんなごみがおちています。

「ぼくが、ごみをあつめていないから、なのかな」

パックはむねが、きゅっと、くるしくなりました。

もう、のはらや、はまべをはしっていたときの、

たのしいきぶんは、なくなってしまいました。

ゆうひをながめていたときの、

ゆったりしたきぶんも なくなりました。

じぶんのせいで、まちがよごれている、そうおもうと、

かなしいきもちになりました。

## パック、いそいでかえる

---

パックは、いそいでせいそうきょくへ もどりました。

もうよるです。

せいそうきょくは しまっているかもしれません。

にげだしたパックを おこっていることでしょう。

でも、ごみは ひとりでは かたづけられません。

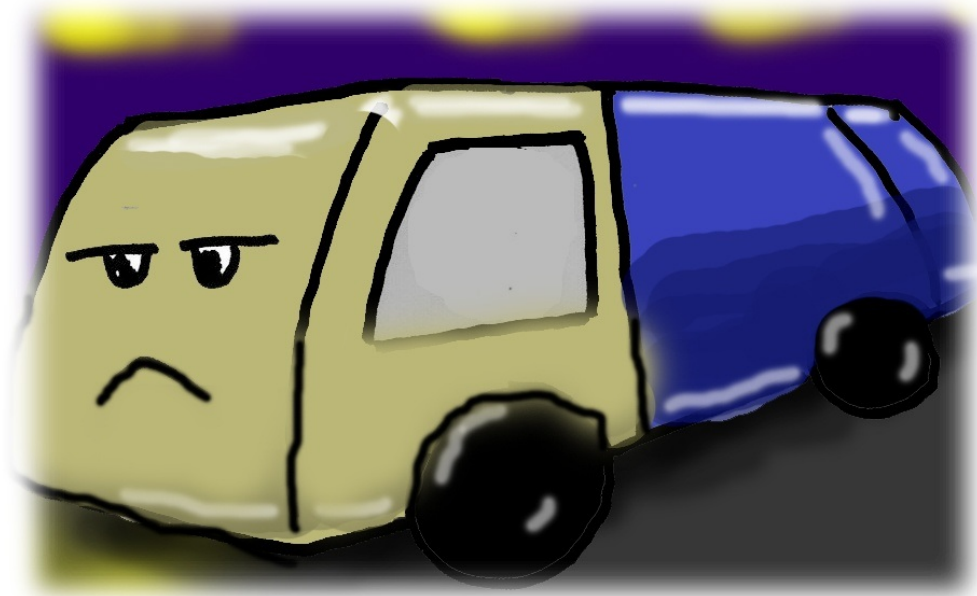
おじさんや、せいそうきょくのひとがいないと

ごみは きれいになりません。

あやまって、おねがいして、

いっしょに ごみをかたづけなければ、

まちはきれいになりません。



せいそうきょくは、おおいそがし

---



せいそうきょくにつくと、でんきがぜんぶ ついていました。

おじさんたちが みんな、いそがしく はたらいています。



びっくりしているパックを、おじさんがみつけてきました。

「もう、きはすんだかい？」

「おじさん、おこってないの？」

「おこっちゃいないさ、あんなこわいめに あったんだ、

にげだしたくなる きもちは、わかるよ」

「ぼく、こわくて にげたんじゃないんだ」

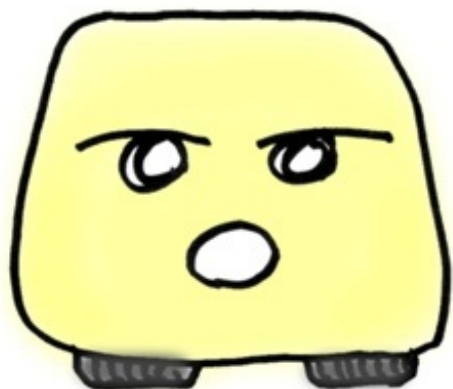
おじさんはパックのおなかを やさしくたたいて いました。

「おんなじことさ。

それで、もう、ごみあつめのしごとは できるかな？」

「はい！」

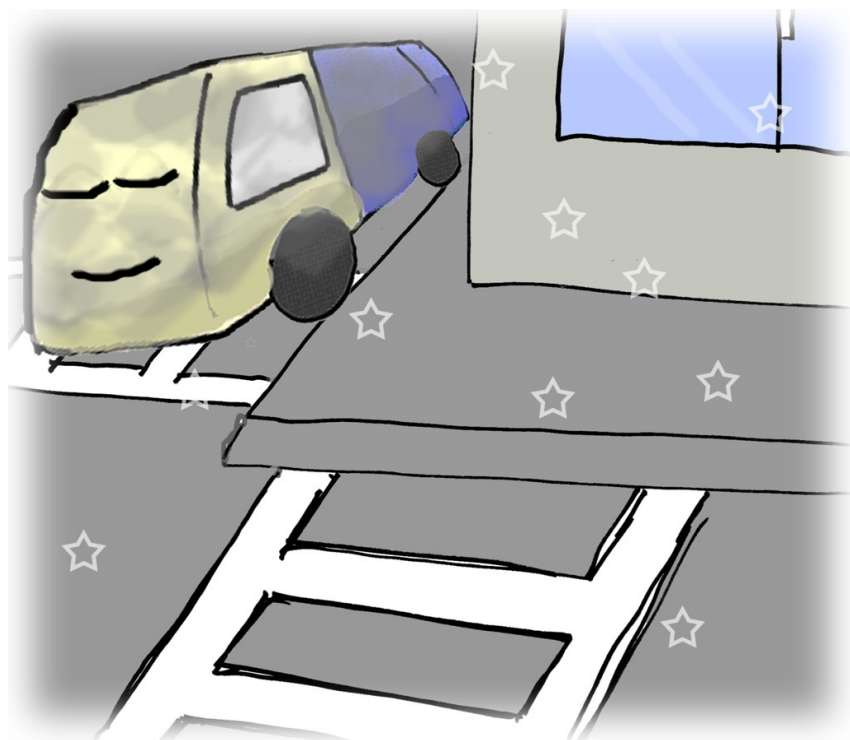
パックは、はっきりと こたえました。



パック、まちをぴかぴかにする

---

パックとおじさんは、あさになるまで、  
なんどもなんども、ごみをあつめました。  
まちは もとどおり、ぴかぴかになりました。



そのかわり、パックは ずいぶんよごれてしまいました。  
でも、ぴかぴかになった まちをみて  
「ぼくが、ぴかぴかにしたんだ」  
とおもうと、パックのむねは、あたたかいもので、  
いっぱいになりました。



つぎのあさ、パックが ごみをあつめに ゆこうとすると、  
こどもたちが なにかしています。



『パックが かしじになります

きけんぶつは ここに入れてください』

とかいた、おおきなかごを、ごみしゅうじゅうじょに  
おいて まわっているのです。

「おじさん、みんながぼくのために、

つくってくれたんだよ、みて！」

パックは、うれしくて、ワクワクして、

飛び上がりたい気持ちでした。

それから、げんきいっぱい、

ごみをあつめに かけました。

パックのおはなし ～うごかないくるま～

<http://p.booklog.jp/book/37548>

著者 : hiroxshu

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hiroxshu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37548>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37548>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.